

「ハルボライズ」港碇泊日誌

五月六日 日曜日 晴天

午後四時三十分當「ハルボライズ」港に到着水先人「ジョーウエー」氏ノ案内ニテ港内碇泊地ニ投錨ス

兼組員検査手續一切省略直ニ陸上トノ交通ヲ許サレテ投錨後直ニ左記ノ来訪者アリテ本船ノ為メ出来得ル限リ便宜ニ

英ノ度旨申込リタル

港務局副官 Tominte R. W. E. Stone N. (海軍中尉)

M. R. Grace & Co. (Agent Toys Kisen Kaisha)

Dr. Thomas W. Pugh. 河田 豊彦

艦隊司令官 ^{海軍} 中尉 Augustin Prof.

五月七日 月曜日 晴天

午前六時水先人再ビ来船碇守存ノ厚意ニ依リ海軍碇泊地内

第二第三浮標間、警備ス

本日早朝四枝綱吉氏、其子も、府より第一着ニ来船乗組員ヲ慰問セヨ且ツ通譯案内等諸般ノ便利ヲ供ハラシ

午前十時船長小園教官同伴上陸在記ノ者所ノ歴訪ス

港務局・於テ Capt. Records Amengual.

鎮守府・於テ Rear Admiral J. Longolis

東洋汽船代理店・於テ Manager Nightman

Sub-Manager J. Amengual.

合共 Steamers Dept. 2人 Mr. Macaulaughlin

清港務局長 Capt Records Amengual 等此ノ為来訪

左記諸氏ハ、其子も、府より来訪乗組員ヲ慰問セヨ且ツ船

員ノ為ノ通譯案内ノ當ヲ取ラシ

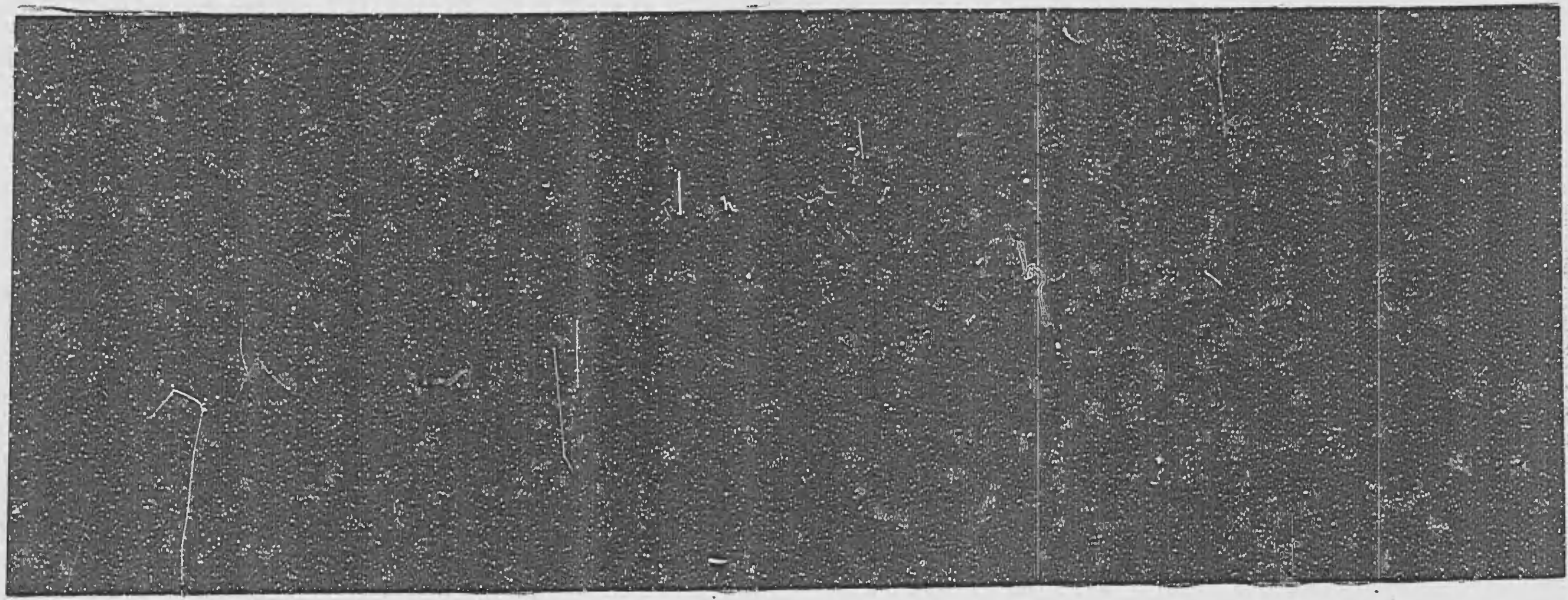
農商務省練習生 四枝綱吉。今、早川直治。今、増田耕一。

0783



バルバライツ
港市街

0784



全港
仮泊地
多
切
岸
一
丁目

左記當地在住民者諸氏ハ乗組員慰問且ツ船務周旋案内、
為メ來訪セラル

農商務省練習生 矢野俊夫。 三井物産派出員 服部鉄太郎

柔道家 大倉甚吉。 柔道家 河田國雄

本夜並洋外交官、甚ヤゴリ來船本船遠航ヲ慰問セリ且ツ碇泊中
總負、甚ヤゴリ府見學觀迎並、日置公使ノ催ヲ以テ本船、於テ當
地人士招待方ニ關スル事項ニ付打合セリ

七月八日 火曜日 晴天

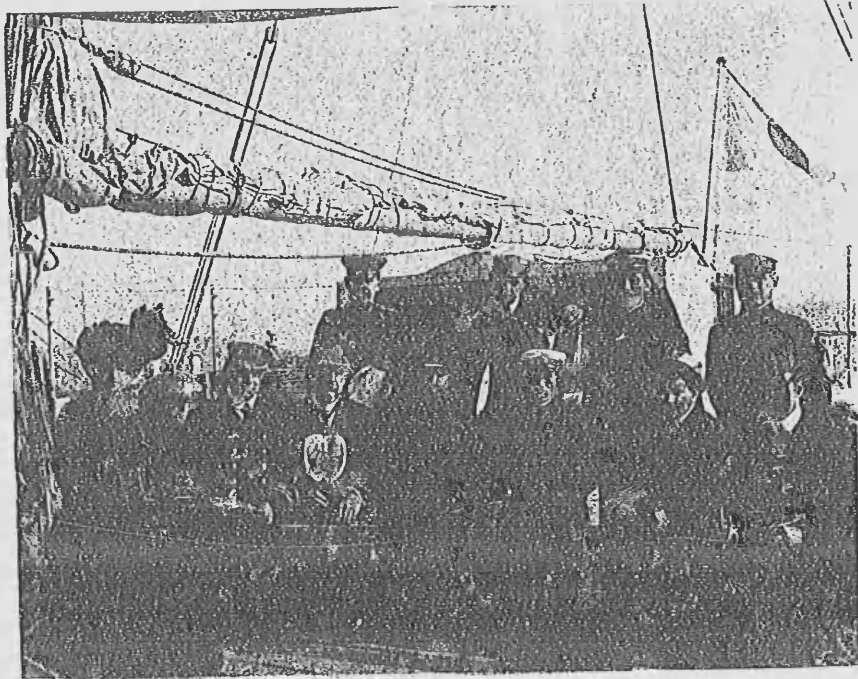
今朝並井外交官、乗組總負、智利國情一斑ニ付一場ノ講話アリ
今回船長が公式訪問スルヤ諸官ノ問合セ、為メ今朝九時並井外
交官、小関教官同伴ニテ旗艦 *Chigpin* = *Augustin Prot* 等
訪問セシ、不在ニ付上陸シテ今氏住宅ニ於テ面會シ前項ノ問合ヲ
為シ且ツ學生見學ノ場所ヲ研究シテ飯館セリ

在「*Yamashiro*」*Raja yoga school* 39 当地在住 *Mr. John. R.*
Beaver ヲ經テ雜誌「*Raja yoga school messengers*」
九十冊ヲ總算ニ寄贈セラル又令氏ヨリ美麗ナル草花ノ寄贈アリ
中興義家白馬 *Luis. a. Barrios* 氏本船ノ來觀アリ *Mr. R. Best.*
Mr. W. Stone. 令家族並ニ友人十數人同伴本船來觀アリ
午後七時並井外交官帰京セラル
日置公使ヨリ並井外交官ヲ以テ本船當地碇泊中總算其ノ
ヤゴニ府見學並ニ公使ノ主催ヲ以テ出帆前當地人ナリ本船
招待ノ申込アリ其方法打合ニ當リ在京諸官訪問ノ為ニ船
長「本日午後七時發ノ洗車ニテ廿二時ヤゴニ府ニ出發ス今時昨日
來也ヤゴニ府來訪ノ由故早川増田ノ諸氏一先ヲ飯京ス

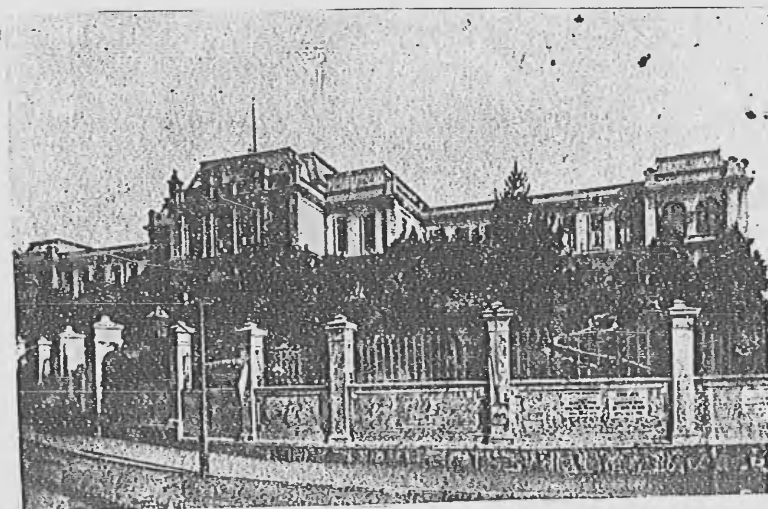
十月九日 水曜日 晴天

今朝海軍中尉「*...*」氏ヲ以テ本日午後二時大統領夫人本船

0786



智利火出列人統艘水人兼船



海軍兵學校

0787

御來觀ノ旨通知アリ候テ今時刻御侍受申上レ之今三時小蒸汽船
ニテ隨員七名令乗御來船アリ佐々木一等運轉士小関教官、栗
内三船内巡覽講堂ニ於テ學生一同謁見總代横山友太郎佛
語ニテ御禮ヲ申上レ之ニ對スル御挨拶アリ夫レヨリ士官會堂ニ
テ三鞭酒ヲ上ル茶菓ヲ供シ上甲板ニテ學生柔道擊劍數番ヲ
演シ御覽スルニ時間計ニ遊覽ノ上ル還セラル

Mrs. Sarahel Combs de Month (Lady President)

隨員 Mrs. Mercedes Lindalos G. de Month.

Capt. Rencardo Amingual (Capt. of the Port)

Capt. Luis Gomez C. Lieutenant Captain Port.

Mrs. Emeliasimo Rivera.

Mrs. Antonia Star Juez del Olimpo de Valparaiso.

外ニ陸軍要員十餘人あり

0788

来日十日金曜日より以て *La Salina* に於て本船乗組總員より
懇切ノ為メ招待シ度旨港務局長並ニ、ハラス海軍中尉より
内意ヲ小関教官迄傳ヘ来レ

本日左記ノ諸氏答礼ノ為メ来訪アリ

Mrs. Frederica Nightman (Manager Grace & Co.)

Mrs. S. B. Chandler (W. R. Grace & Co.)

本日學生半船より上陸半日ノ交代ヲ市中ノ自由散歩ヲ許

ス案内者矢島、大宮両氏ニ依頼ス

十月十日 金曜日 晴

港務局長 *Capt. Omengual* 氏より在館ノ書籍ニ寄贈セラル

Deans Gracia 日記

Manual de Meteorologia Platica 本冊

午前十時職員七名學生總員より率りて旗艦 *Aligpin* 參觀

0789

又艦隊司令官 Miguel Aguirre 大佐指圖ノ下ニ部下各官、想
爲ル案内ヲ受テ艦内無限視察ス

午後二時海軍兵学校ヲ参観ス校長 Luis Astigarraga 少将ニ面會
シテ挨拶ヲ述ベ同校生徒ノ步兵操練令列式ヲ觀シ

本日正午船長、セキヤゴ、府ヨリ帰船ス但在府中大統領訪問ノ答ナシ
ニ旅行不在ニ昨九日公使團伴外務大臣、軍務大臣、工部大臣ヲ歴訪
シテ敬慕ヲ表シ且ツ公使館ニ於テ總負、セキヤゴニ遊覧ノ日
時順序本船招待會ノ接待方法ヲ取極メ帰船セラル

十月十日 土曜日 晴天

午前十時職員學生上陸海軍工廠ヲ参観シ正午帰船ス
午後二時職員學生總負再同上陸シテ海軍模範学校ヲ参観ス全
校一覽並ニ雜誌「智利海軍歴史」全校生徒銃隊写真類
面ヲ寄贈セラル

本日船長、旗艦 *Shiggin* に艦隊司令部より訪問し夫レヨリ
Lieutenant Post 一葉内ニ在記参官より禮訪し敬意ヲ表ス
海軍通報局長。公ニ廠長。公海軍局長。縣知事。市長等
午台堂ヲ日本。来遊セル當地人 *Bill Mackenzie* 氏来訪セル
另台度ニ本船ニ来リテ萬事ニ就キ極メテ懇篤ナル答ヲ取ル

三月十一日 月曜日 晴天

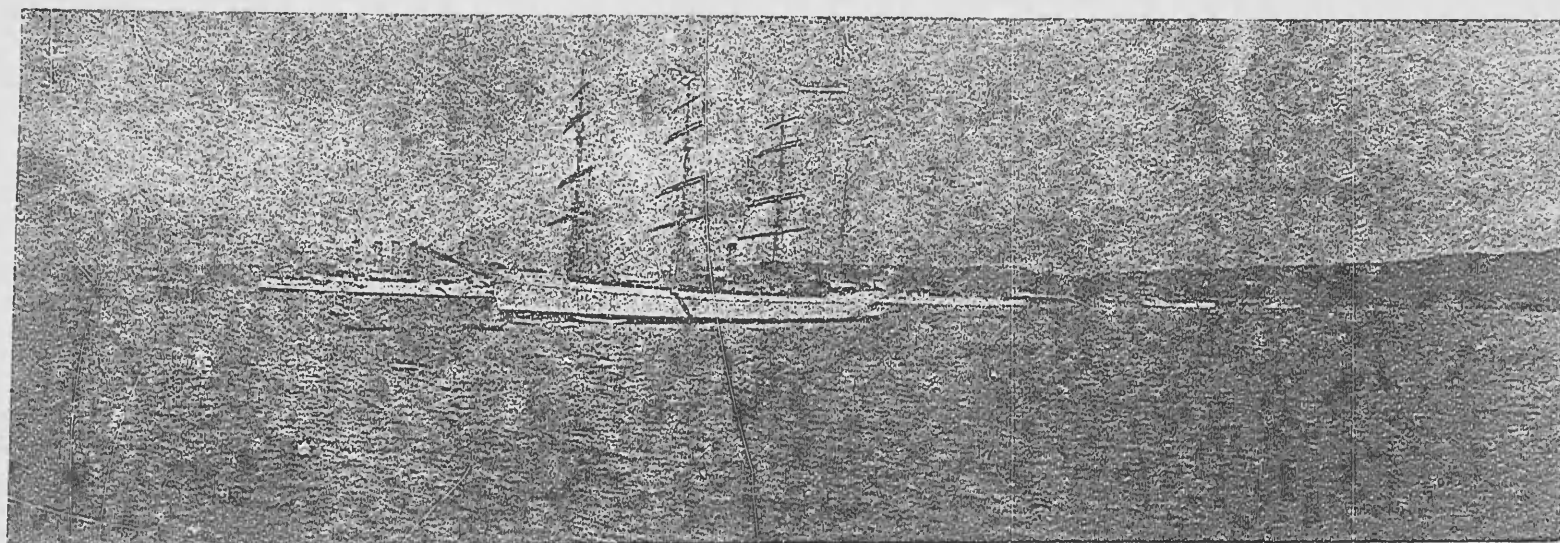
本日学生一同半船ヲ午前午後ニ分テ上陸市内自由散歩ヲ許ス
當地在住中田成忠氏。自宅ニテ酒肴茶菓ヲ設ケ上陸ノ
職員学生ニ懇篤ナル迎養應アリ

下級船員ニ午後ヨリ上陸市内自由散歩ヲ許ス

旗艦 *Shiggin* 副長来船アリ

本日、日曜休業ニ付兵学校機関学校生徒並。市民ノ来觀者朝来
引籠キ夕刻。至ル迄来客船内ニ充滿シ来往引キモ切レズ

0791



本夜大島俊夫氏學生一同ハルライツ、セキヤゴ同各駅地理歴史特産物ニ就キ講話アリ

本日午後、マツセリ、氏ノ招待ニテ職員数名鄭重ニ饗應ヲ受テ

三月十三日 月曜日 晴天

海軍水陸部ヨリ智利國沿岸諸港ノ海番寄贈アリ

市長並ニ知事代理答礼ノ為メ來訪セラル

本日午前小園教官、大島俊夫氏ト合道野行ニ至リ、*St. Albert*

氏ニ面會シテ明朝總負、セキヤゴニ行汽車、用意ヲ依頼シ、同様に停車場ニ同様ノ用意ヲ依頼シ置テ

三月十四日 火曜日 晴天

本船入港已来日置公使及大領ノ厚意ヲ以テ兼組員

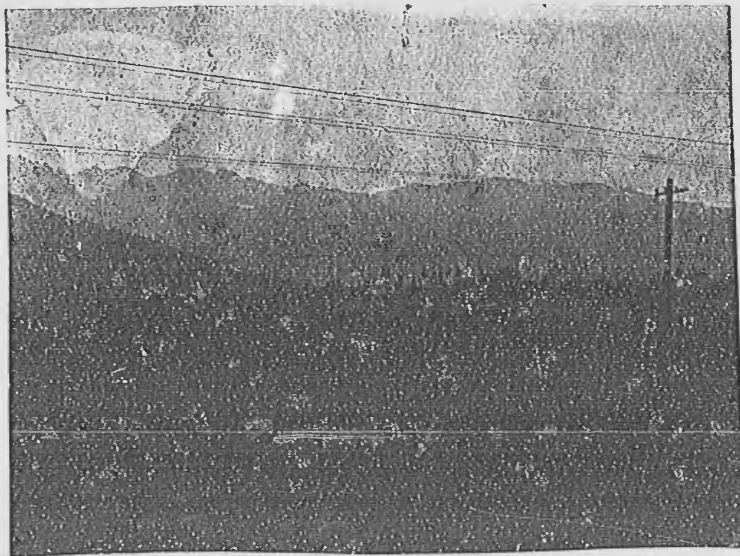
為メ首府、セキヤゴニ市遊覧ノ招待アリ、洗車仕儀共當國

政府ヨリ無償ノ取扱ヲ受テ本日午前七時職員十名學生八十

一名傭人四名上陸同八時ハルライズ「駅發」一等列車ニ台一分
乗シ在留日本人並ニマッセリ「氏及令親戚」三名隨行ニテ汽
車途中ノ山川景勝等懇篤ナル説明ヲ與ヘラシメ午後零時
三十分、其キヤゴ「府」アラメダ「駅」着公使館員及在留同胞諸氏
ノ出迎ヲ受ケテ入京シ「ホテル」ホテン「ホテル」ホテン「ホテル」
三樓館ニ分宿ス晝餐後三時迄市中自由散歩ヲ為ス午
右四時總負帝國公使館ニ召集シ紀念ノ為メ撮影ス夫
ヨリ公使ニ誘リレテ「當地」高等商業學校ヲ參觀ス講堂
ニ於テ本校教官英語ヲ「商業教育」ノ沿革ト題スル講話
アリ了テ日置公使ノ挨拶アリ
「公使挨拶」ノ大要「余ハ日本帝國ヲ代表シテ一言挨拶ヲ述ベ
ル今回練習船大政丸が當國廻航ニ舟乗組員懇切ノ為メ當國
人士が熱誠ナル厚意ヲ以テ款待セラレ「ット」ハ余ノ深ク陳謝スル

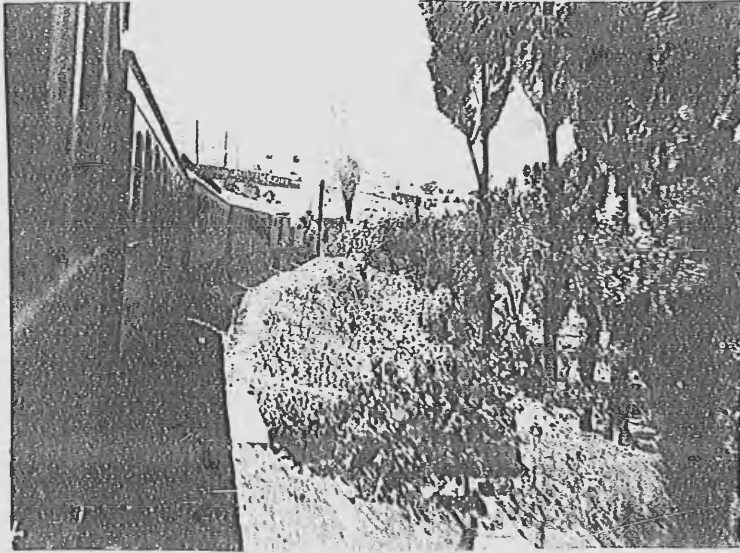


七
十
三
年
七
月
廿
九
日
取
組



七
十
三
年
七
月
廿
九
日
取
組

0795

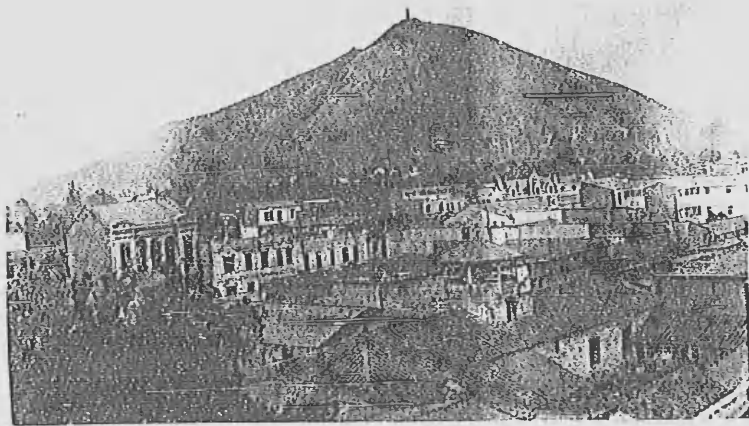


リ
エ
ン
グ
リ
シ
の
街
景



リ
エ
ン
グ
リ
シ
の
街
景

0795



山王山 (山王山) 山王山

0797

所ナリ以機會ヲ以テ日本人ノ當國ヲ知ルト同時ニ當國人士ニ層
日本ノ事情ヲ識ラズテ希望ス比較スルニ非ラザレバ日本ノ人口五千
万ヲ有スル一大帝國ナレバ教育制度非常ニ進歩發達シ居リ最
高商業教育ノ如クハ東京帝國大學ノ一分科ニ編セラシ高等
商業學校ハ東京神戸大阪長崎其他府縣ニ數多ク設置アリ
普通商業學校ハ全國四十餘縣ヲ通シテ七十餘ヶ所ノ設ケアリ
教育ノ普及到ラザル所ナシ只今ノ演說ニ依ルニ當國ニテハ本校卒
業生ハ直ニ世間ニ重用セラレコトハ勿論其全科卒業生ニテハ
テ僅ニ一ヶ年ノ科程ヲ學ビタルモサレ直ニ社會ニ歡迎セラレト
ナレバ日本ニ於テハ高等教育ヲ受ケタルモ朝野ニ充滿シ近年高
業商業學校卒業生者サレ其職ヲ得ルコト容易ナリ次弟ナリ
教育ノ隆盛ナルヲ押シテ知ルニ現今東洋諸國ニ勿論露國
其他歐洲人ノ東京ニ留學スル者幾萬人ヲ以テ數フニ至レリ願

ハ諸君之他日日本ニ来リ遊学セヨトテ希望ス其時ハ今日ノ御
厚意ニ對シ充分謝礼ヲ盡スコトガ出来テアロート信ズ云々

午後五時解散夫ヨリサタニ公園ヲ觀覽シ夜入り各自旅館帰ル
本夜職員一同公使館ニ参集シ酒肴ノ御食應ヲ受テ来ル
十八日本船招待會方法ニ關シ打合セリ爲ス
本日船長ハ公使同伴大統領ヲ訪問シ敬意ヲ表ス大統領
他行不在ニ付同夫人ニ謁見ス

十月十五日 水曜日 晴天

午前八時朝食後四枝早川矢島増田木村諸氏ノ案内ニテ市ノ中央
コウジヨ公園ヲ遊覽シ正午帰館晝餐後三時迄自由散歩
職員數名マッセリ氏ノ案内ニテ俱樂部ニ於テ午餐後御食應ヲ受リ
午後三時公使ニ誘ヒテキントンル公園ニ赴キ同所農業實施
学校ヲ視察ス同後醸造ニ係ル葡萄酒及茶菓ノ御食應ヲ

リ夫レヨリ博物館ヲ巡覽シ全館ニ於テ工部省技師ノ智利國
産業ニ関スル講話アリ了テ動物園ヲ遊覽シ園外運動場
於テ田農業實施學校生徒ノ催カカル印度人打球競技ヲ見
頗ル興味アリ技師ヲ記念ノ為ノ撰午ト共ニ撮影ス

午後八時、モタルンタル公園内ニ於テ公使ヨリ晚餐ノ饗應ニ受リ席上公
使ニ歡迎ノ辞ヲ述ブレラシ之ニ對シ船長ノ謝辞アリ主客満盃献酬宴酣
ニテ館員學生並ニ起テ演說教番者十二分ノ歡ヲ尽シ

陛下ノ萬歲ヲ三唱シテ午後十時散會ス夫レヨリ公使以下諸氏
見送ラシ午後十一時、アヲモトニ駅發シ一等列車ニ台ニ乗レテ萬
歲聲裡帰路ニ上ル

正月十六日 木曜日 晴天

午前六時一行ハハライノ駅着直ニ帰船ス

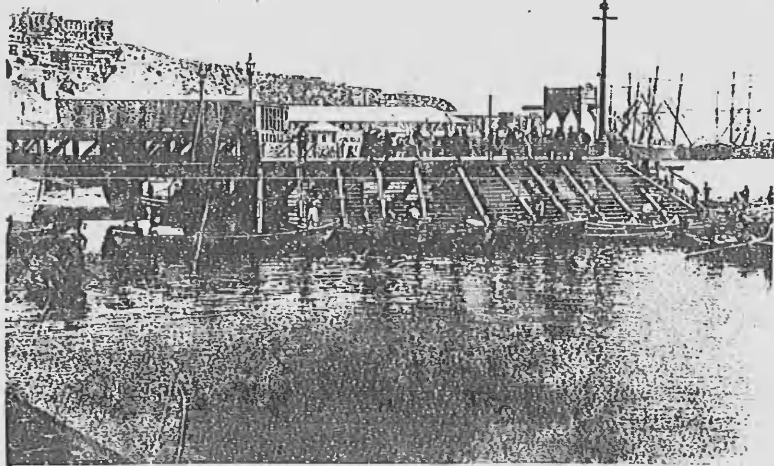
正月十七日 金曜日 晴天

本日職員學生ハ港務局長ノ招待ヲ受ケ午前十時上陸ハ
ハライズ駅ヨリ別仕立ノ汽車ニテ、ラサリナ駅ニ下車シ全地
海軍氷交社所屬庭園ヲ遊覧ス日置公使、並井外交官甘
利通譯官、並ヤゴ、ヨウ會同ス當日海軍兵學校並ニ同機關
學校教官生徒ヨリ懇篤ニ歡待ヲ受ケ園内ニテ鄭重ニ饗
應アリ終日歡懇ヲ盡シ午後四時散會、ラサリナ駅發特別
列車ニ乘リ一同ニ見送之ケ全五時、ハルハライズ駅着直飯
船ス又公使並ニ船長ノ為メ歸路別ニ自働車ヲ以テ送リ沿道
附近ヲ參觀指點案内セラル、汽車ト共ニハルハライズ駅着ス

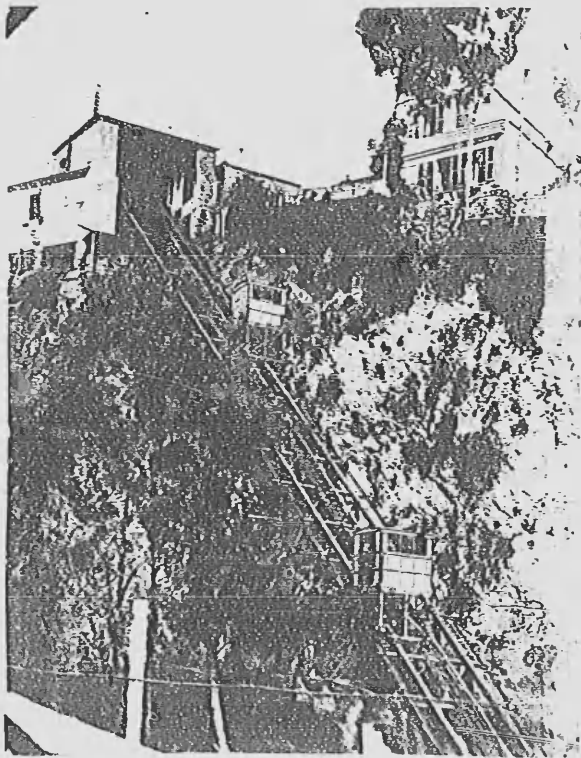
十月十八日 土曜日 晴天

本日日置公使ノ主催ヲ以テ本船滞在中歡待ヲ為シ、各地
並ニ在京朝野知名ノ紳士淑女三百人ヲ本船ニ招待シ本船
ヲ當國ニ紹介セラル、當日來賓送迎用トシテ本船所屬小蒸

0801



ハ
ル
バ
イ
グ
レ
ト
海
岸



0802

汽ノ外港路局ヨリ小蒸汽三艘ヲ借受テ午後二時三十分ヨリ来賓
ヲ棧橋ニ出迎ヘテ本船中甲板ニ学生ノ考案ニ依ル日本品展覽
會喫茶店ニ見岩本船航跡圖其他種々ノ作り物ヲ設ケ后
甲板左部ヲ立食場ト爲シ調理ニ悉ク公使館料理人ノ手ニ成
リ本船船長之レヲ補助シタルモトス余興ニ海軍々樂隊ヲ借リ学
生ノ擊劇柔道劍舞活人画歌曲等數番ノ演藝アリ午後四
時君が代ノ吹奏ト共ニ宴ヲ開キ横山学生佛語ヲ歓迎ノ辞ヲ
述ベ開宴中余興ヲ演ズ大ニ来賓ヲ満足セシメ拍手喝采ヲ傳
テリ午後七時三十分解散元ノ小蒸汽ニテ萬歳聲裡ニ一同ヲ見送
ル

本日午後三時大統領御來船ノ筈ナリシニ俄カニ御差支ハク志願
見合ヒトナリタルニ一同ノ大ニ遺憾トスル所ナリ

三月十九日

日曜日

晴天

0803

英組員半船より午前午後交代上陸市内自由散歩ヲ許ス

本日午後並井外交官帰京セラル

本夜セネターリベラ氏大統領ノ意ヲ兼テ日置公使本船長東
任教官一等巡轉士、樺岡長、英語教官、其自宅ニ招待セラル当地
重光海軍士官及、マゼリー氏令席ニテ鄭重ニ御禮應ヲ受ク
去ル十五日船長カ、甚モ公ニ府ヲ平山校長ニ宛テ今由本船当地
ノ碇泊中當國官民ヲ熱誠ニ歓迎ヲ受ケタルニ對シ當國政
府ハ謝意ヲ致シ度旨電報ヲ以テ上申セシニ直ニ小村外務大
臣ヨリ其答礼アリタルヲ以テ左記電報ノ意ヲ當地及、甚モ
公ニ府各新聞紙ニ掲載セシメタリ

日本國政府ハ當地駐在日本公使ヲ經テ大隈元帥が當地
官民ヲ共ニ喜ハシムル厚意ニ對シ謝意ヲ表セリ

十月二十日 日曜日 晴天

本船「明王」日未明当地出帆ト定メタルヲ以テ本日午前船長公使同
伴上陸シテ海軍總務長官、モトト中將、港務局長及、セネター、リベラ
氏ヲ公武ニ訪問シ滞在在中、謝意ヲ表シ告別ヲス
大統領ニ對シテ電報ヲ以テ滞在中ノ厚意ヲ陳謝シ暇乞
ノ挨拶ヲ為セリ

午前土時公使並、甘利通譯官一行帰京セラル

午後三時当地官民留別ノ為メ來訪者引続キ深夜ニ至ル
ニテ來客船内ニ滿ツ

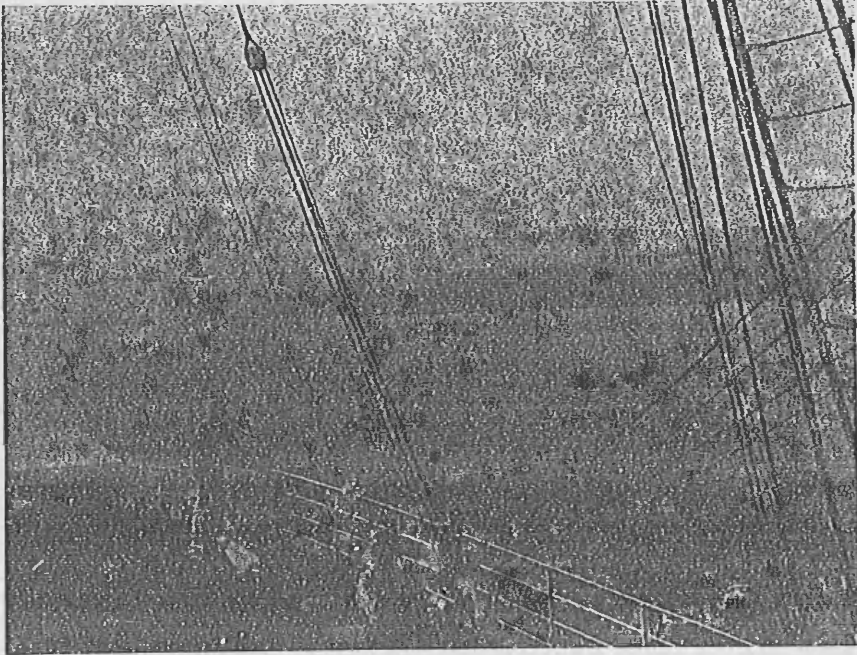
茲ニ特記スルノ本船滞在中日置公使並ニ公使館員諸氏
ノ金力ヲ奉グテ學生ノ見學業組員ノ慰勞兩國間ノ親厚ニ
盡力周旋セラルル素ヨリ敬奉ニ違フズ後テ当地人士ヨリ日々
熱誠ニ歡待ヲ受ケ所々有益ナル見學愉快ナル觀光ヲ為
シタルヲ本日記ニ記載ノ如クト爲ル就中前年日本ヲ周遊

セシ日本心酔ヲ以テ名アル老紳士、マッセリ氏一昨年練習
艦之乗組ニ日本ニ乗航セラルタル、フラット海軍中尉港務局長
東洋汽船代理店、グレース會社支配人ノ五氏ニ取命ケ本船ノ為
ニ直接盡力周旋セシ言語不通國風習俗不案内ノ地ニ在リテ
一舉一動悉ク全氏等ノ親切ニ指導案内ニ頼ラサルモノナリ以テ
失体ナキニテ得タルニ本船ノ深ク陳謝スル處ナリ

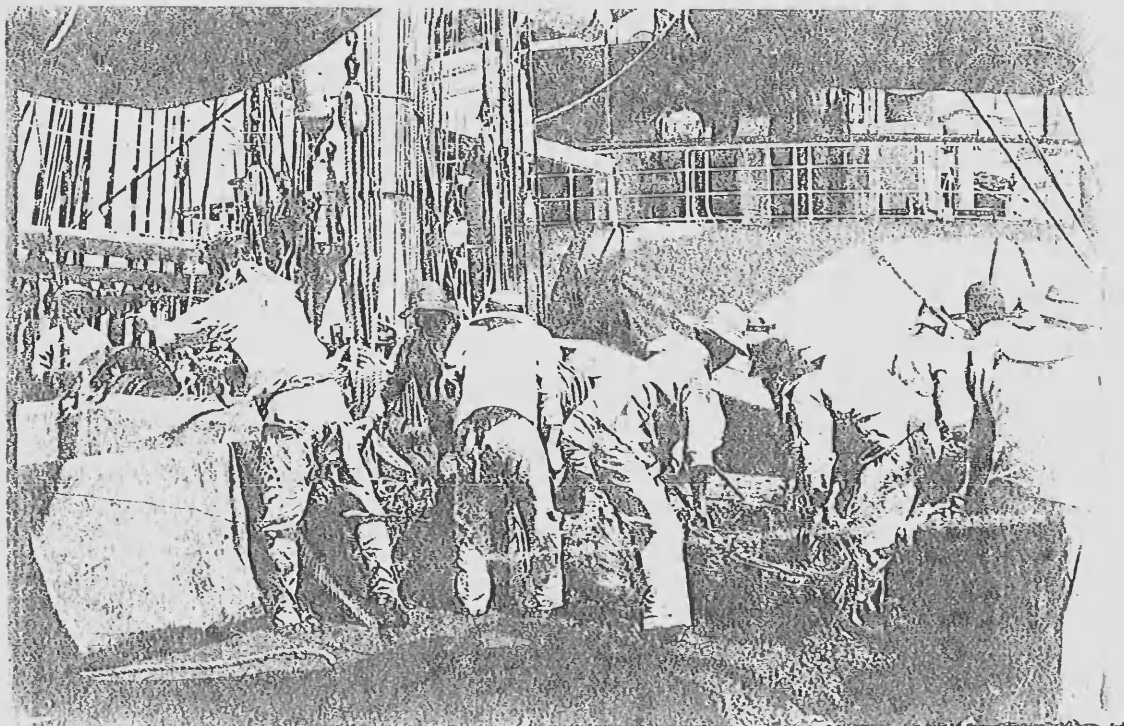
五月三日 火曜日 晴天

午前六時、コキニホニ向ケ出帆

出帆ニ臨ミ別紙ノ謝辭ヲ西班牙語ニ譯シテ當地各新
聞紙ニ登載セシメタリ (別紙譯文畧ス)



八〇



〇八〇

自バルライツ港至コライボ港

明治四十三年正月二十日

晴天南西、輕風あり午前五時半水先人の

ユ一エド民業船出港準備ヨラス全六時半解纜、コライボ港向

フ全六時三十分ロダツ一鏈ノ距離ニ通過シ水先人ヲ下船セシム

船港口ヲ離ルニ後ニ風向漸次変轉シテ風力モ亦加リ南微東疾

風トナル午前八時三十分南緯三十二度五十分西經七十五度四十五分

ニ於テ汽走ヲ止メ帆走ニ移リ順風ニ駕シテ一時間六里乃至七里ノ

速カヲ以テ北航ス

正月二十日

晴天南方ノ雄風吹續ス午後零時八分コライボ港

燈台ヲ三哩ノ距離ニ通過ス全三時三十五分コライボ港口ニ達

シ水先人、望一セシ民業船港内ニ航進ス全三時五十四分水

深六尋半、錨鎖三十尋ヲ出シテ單錨泊ス底質質泥

バルライツ港ヨリコライボ港ニ至ル全航程航海日數平均

速力ヲ平均六左ノ如シ

日數總計 一日九時三十分

全航程 六百十三哩

内

帆走

日數 一日二時十六分
距離 百六十七哩

汽走

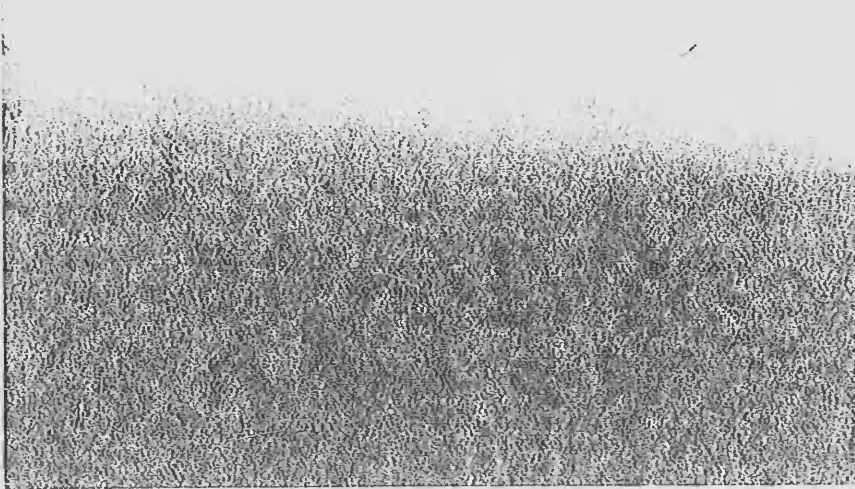
日數 七時五分
距離 四拾七哩

帆走

晝夜平均 百五十二哩
時間平均 六哩三

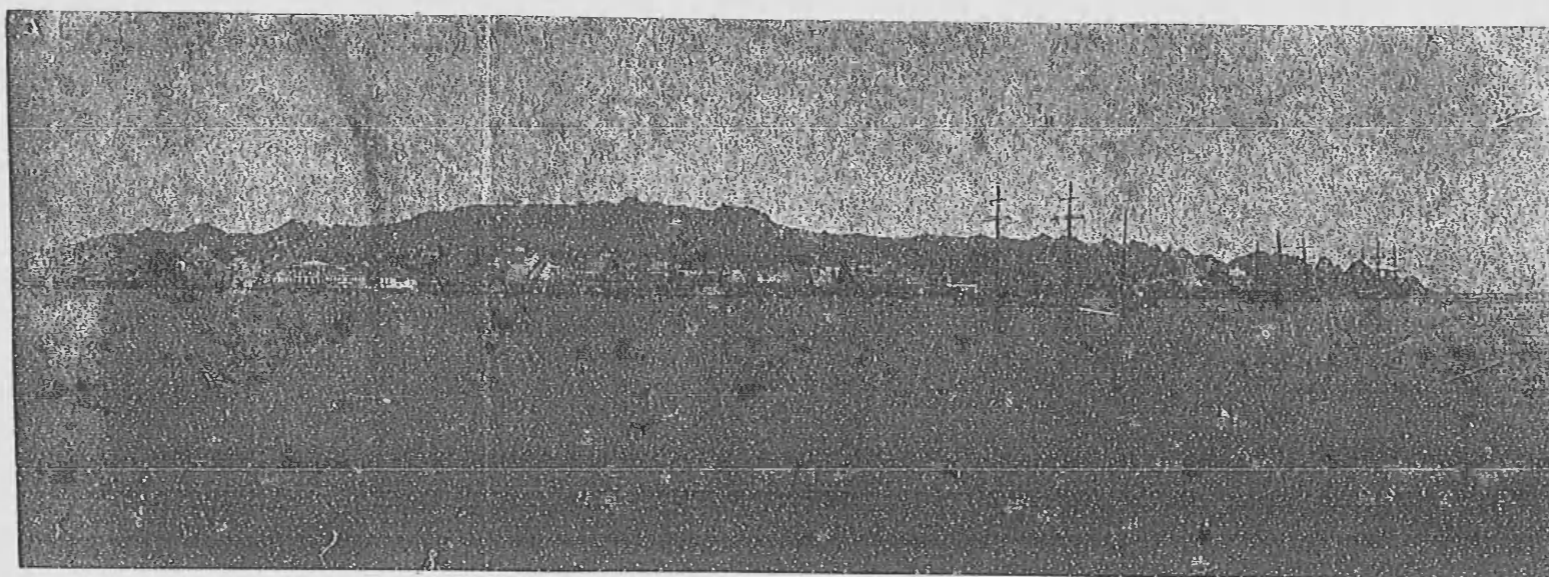
汽走

晝夜平均 百五十八哩四
時間平均 六哩六





ノキレ木港口ノ燈台



ノキレ木港船地多市街ノ望み

0811

コキンボ港

コキンボ港南緯二十一度五十分西至七十度二十分。位スル智利國北部。於
此主要商港ニシテ金銀銅、水銀、マンガース、鉛鉄等ヲ輸出ス。殊
銅ノ輸出多量ナリ以テ名アリ。コキンボ港ニ接スルガヤカン (Guayacan) ニハ
大ナル熔礦所アリ常ニ其煙突ヨリ吐出スル黒煙空ニ漲リ航海者ニ對シ
テ港ニ識別スルニ良好ナル目標トシ又此地ヨリ農産物及毛皮ヲ輸出ス
當市ハバルパライゾノ北方約百哩ニアリテ人口八千ヲ有ス
此地方ニ於テ風向ハ多ク偏南風ニシテ唯冬季時トシテ北西ノ強風吹來
スルコトアリ然レモ此地港ハ東西及南方ニ全然陸ヲ以テ蔽クシ且ツ湾ノ西岸
ニ於ケル「バリカス」岬角著シク北方ニ突出スルヲ以テ船舶其港ノ南西
部ニ泊ル時ハ何レノ季節トモ一年内安全ニ風波ヲ凌グルヲ得ベシ
港内水深尤ニ碇泊ニ適シ底質モ亦佳良ナリ
港口ニテ十九尋、港内中央十尋四分一、錨地六尋四分一、底質泥砂。

水先の強制に及ぶ其水先料ハ左ノ如シ

登簿屯数一千屯以上二千屯以下 三十、五十

二千屯以上三千屯以下 四十、五十

三千屯以上 五十、六十

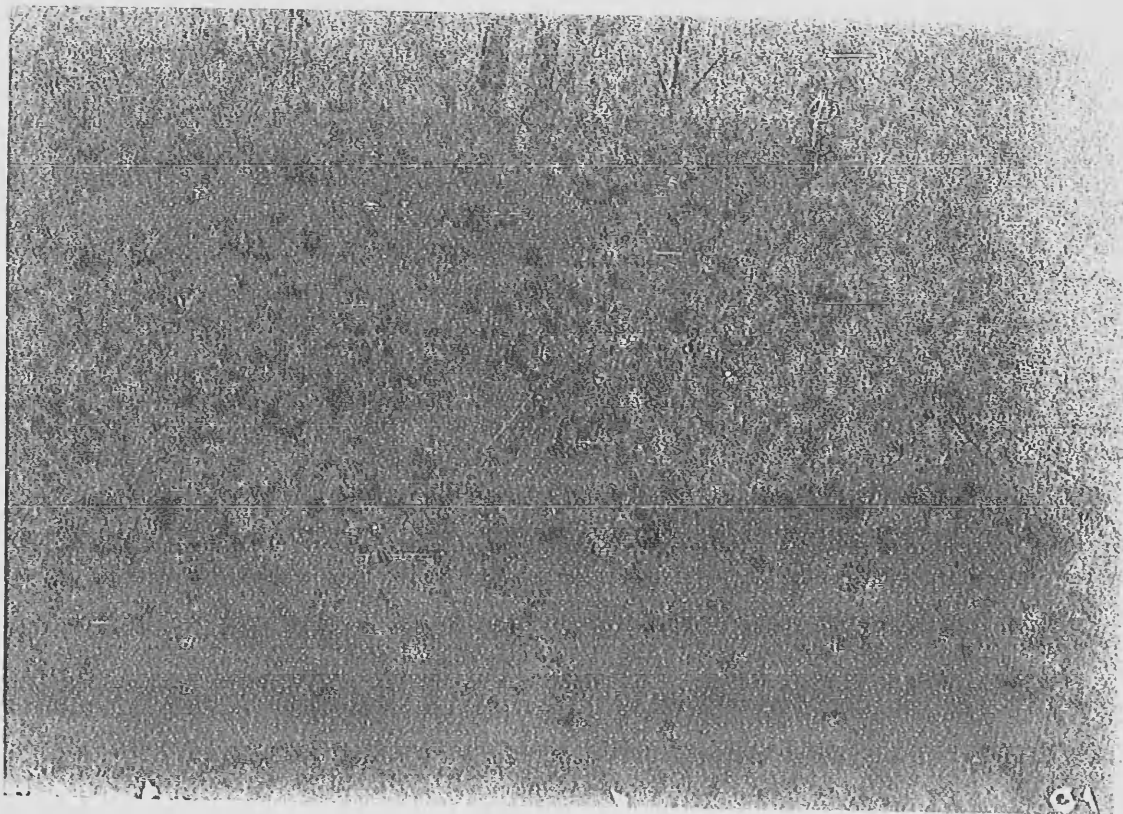
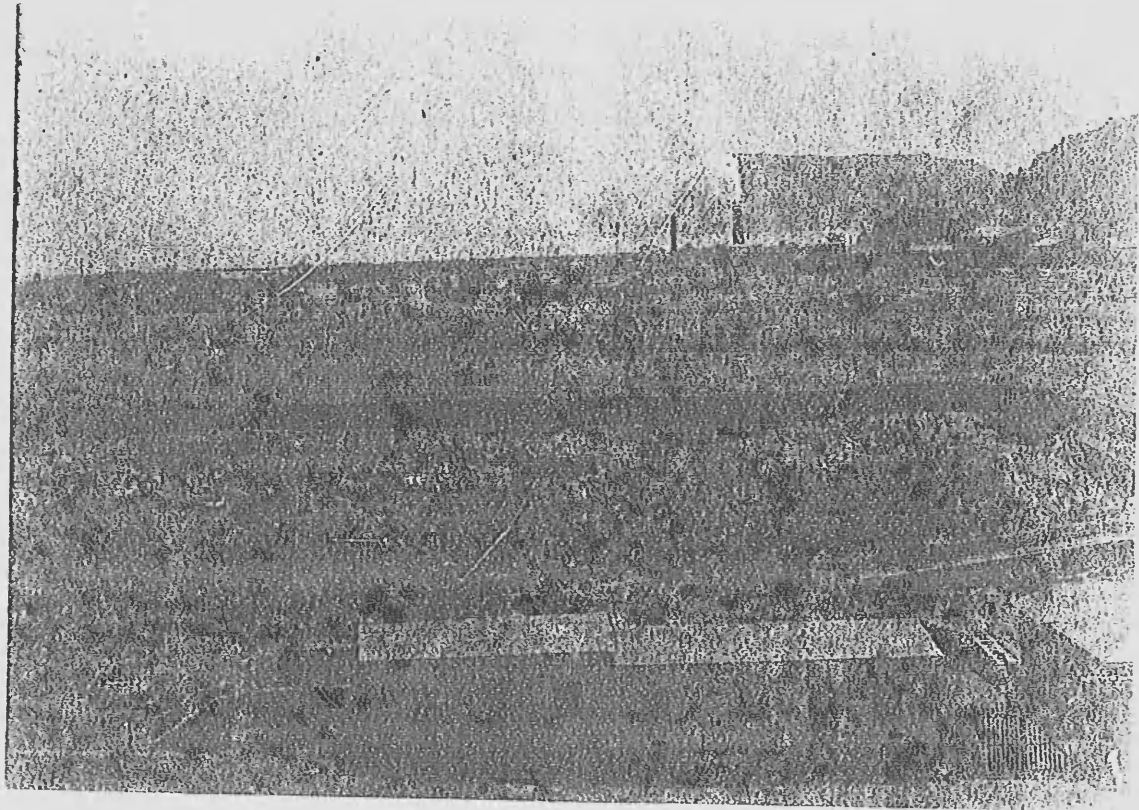
其他露泊料トシテ登簿屯数一屯付三、五セントボツト出望ス但定期汽船ハ代リ四十、五十セントボツト出望ス尚ホ病院税トシテ登簿屯数一屯付十、五セントボツト港税及燈台税トシテ登簿屯数一屯付汽船ハ六十、五セントボツト帆船ハ四十、五セントボツト支拂ラフコト要ス

荷役

貨物ノ積卸ハ三十屯積荷船ヲ使用ス仕儀一回ノ借船料四十、五十セントボツト荷役人夫賃ハ一屯付二、五十セントボツト若クハ一日六十、五十セントボツト

飲料水

コリアノ會社ヨリ供給シ水函船ヨリ船舶ノ搭載ス其價一屯廿百



十カロシ(田)ノソナリ水質ハ善良ナラズ

石炭

一千屯直ニ何時ニテモ「マコリ」フ「會社」ヨリ供給セラル「カー」ノ「炭」モ「時」ト
シテ得ラル「之」概々「濠州炭」ナリ船舶ニ搭載スル「六」三十屯積石炭船
ヲ使用ス「代價」ハ一屯約三十六志ナリ

報時球

「コキ」ボ「商船」学校ニシテ且「繫留」練習船タル「ア」ノ「タ」方「号」ヲ「於」テ「午」
砲ヲ「發射」シ且「後」播「設」ケラレタル「球」ヲ「落」下ス「其」規定「日」曜「休」
日「ヲ」除キ「テ」毎日「正午」五分前ニ「半場」シ「二分」半前ニ「全場」シ「平正」午即
チ「綠」威「平時」四時四十五分二十秒七「落」下ス

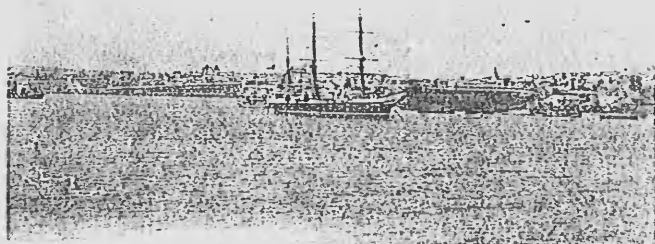
「ア」ノ「タ」方「号」ニ「總」屯「數」九百屯「三」播「バー」ノ「形」帆「船」ニシテ「千八百八」
十年「硝石」戦争「際」ニ「屢々」戦「闘」ニ「參」加「セ」シ「特殊」ノ「経」歴「ヲ」有「ス」
「旧」艦「ナリ」ト「言」フ「年」ハ「コキ」ボ「港」内「波」静「カ」ル「所」ニ「繫留」シ「テ」學生

四十一名ヲ收容シ之ガ哺育ノ任ニ當リ

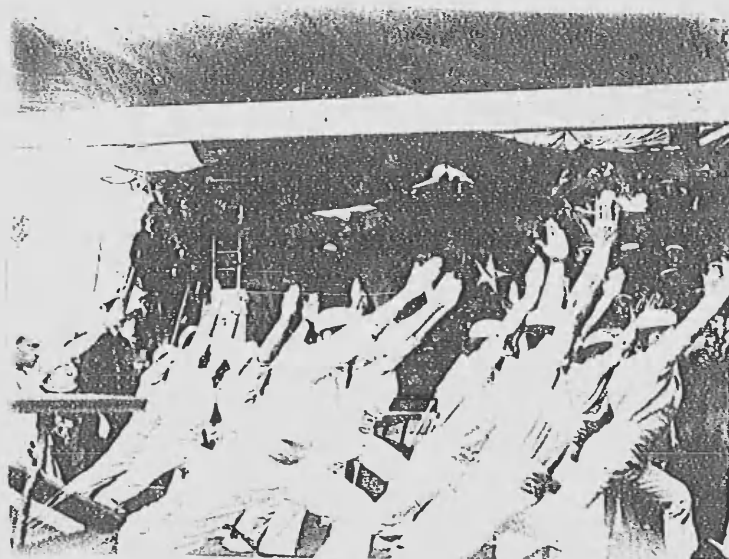
本校ハ數年前迄一隻ノ縱帆船ヲ有シ學生ヲ兼セテ智利國海岸ヲ去ル西方ヨリ三十里ナル「イースター」島ニ航シ以テ操帆ノ實習ヲナシ來リシモ全島碇泊中暴風ノ襲フ所トナリ遂ニ破船シ其後未ダ建造ノ機運ニ會セズ止マナリ今ハ英獨帆船ヨリテ實習ヲ行ヒルノ方法ヲ取リテアリト言フ即チ在學三年ノ後實習約十五ヶ月ノ實習ノ満了ハ航走距離ニヨリテ決スルヲ至テ卒業シ三等運轉士ノ免狀ヲ得ルナリ

在學ノ費用ニ總テ政府ニ於テ支弁ス一名平均毎月三十五ポンドヲ要スト言フ

當港ニ於ケル本年一月初ヨリ十一月迄ノ輸入貨物ノ重九七〇〇ト小麦廿万千石百六十四屯ニシテ其他^雜貨物三万七千八百七十二屯ナリ又印度ヨリ輸入スル米ハ二千百六十五屯ニ達セリ而シテ其運賃約二十六志ニ



練習船
「アノール」



コギボ
練習船に
球坐位
体操

0817

此等當地ニ於ケル市價百キロ四ツ、ソノナリ

本年一月以後十月間ノ入港船舶數ハ汽船八百四十四隻、屯數ハ百四十一万八千〇十八屯ニテ帆船二十隻、四万三千五百五十六屯ナリ

當地寄港ノ重シク汽船會社線ハ在ノ如シ

コスマス線、ロノド線、太平洋汽船會社線、南米汽船會社線、

天氣ハ概テ快晴ニシテ冬季二三回ノ豪雨アルヲ常トス而シテ豪雨ノ際ハ十時間乃至三十時間連降スルヲアリ夏季ハ決シテ降雨ナク四方ノ景色誠ニ荒寥ニシテ砂漠地帯ニ在ルノ感アリ然レモ降雨ノ後約一週間ヲ全ク地面ハ花井翠緑ヲ以テ被リレ始メテ生氣ヲ生ズト言フ

此地方ハ冬季ハ北ケ霧霧ノ發生スルヲ甚シ北方ハイリタトルノカヤクイル河、至ル南米西岸ハ此憂甚ク多ク且ツ濃厚ナルヲ以テ航海者ハ心配一方ナク殊、ソノ沼岸ハ北ケ霧霧多クシテ天候ハ快晴ナ

ルノ實ニ稀ナリ

ラセシナリコソイボ州ノ首府ニテ人口ニ万五千ヲ有スコソイボ
湾ノ北東側ニアリキコソイボ市ト鉄道ノ連絡アリ

0819

コキンボ、港碇泊日誌

三月二十五日 水曜日 晴天

午後三時三十分、コキンボ、港口に於て先人 J. Janssen 氏乗組の
全五時五十分投錨、検査手續より省略せり。直陸上ト交通ス
投錨后左記ノ乗訪者あり。本船ノ為ノ相當、便宜ヲ計ル度旨
懇切ニ申シ下り

Alberto P. Holmgren 南船学校長

Enrique Aguirre Varela 港務長

三月二十六日 木曜日 晴天

本日船長專任教官左記、各所ヲ公試、訪問ス

Ricardo Varela Muñizaga (コキンボ船長)

Enrique Aguirre Varela (港務長)

Herman Atack (Manager Organismo Agencio S. Co.)

Alberto L. Holzgauer (高船学校長)

本日記一乗訪者一

Herman Stack. (nests of American)

Lernanto L. Dalling (Marina de Chile)

本日記一乗訪者一 本日記一乗訪者一

本日記一乗訪者一

本日記一乗訪者一

Carlos Piderit J. (本陸軍士官) Luis A. Saldes B (本陸軍士官)

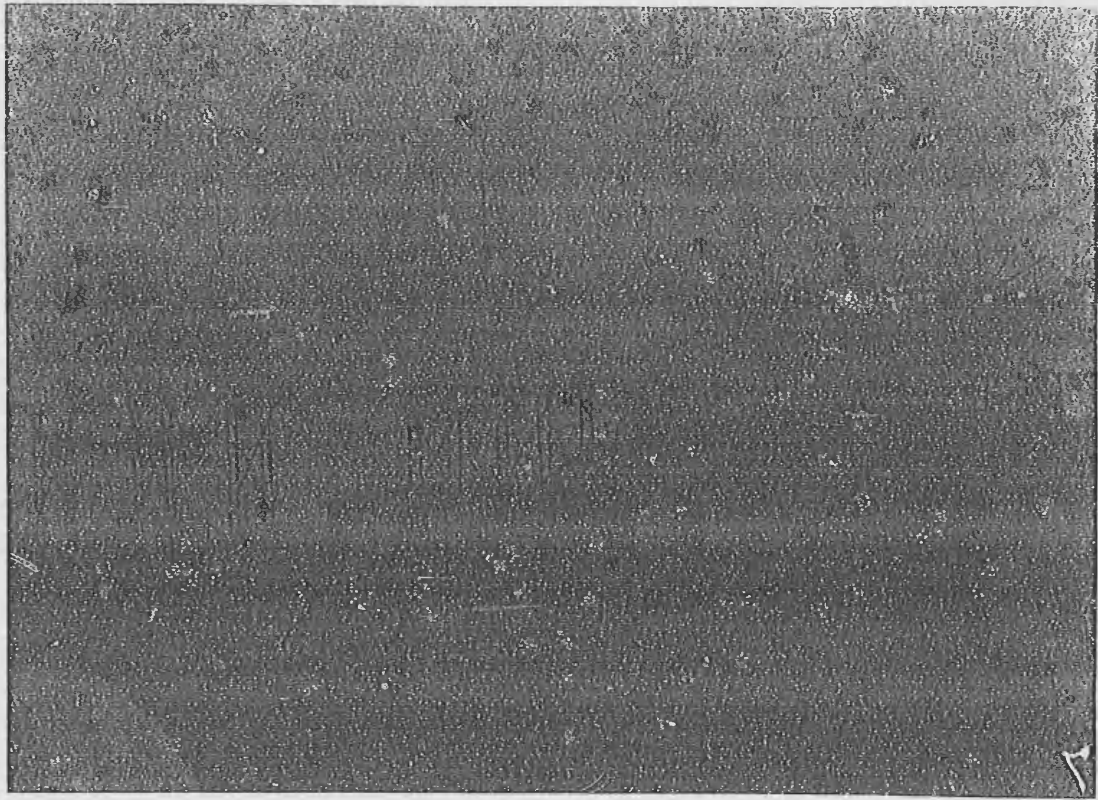
Federico Gielala (本隊長) Rand Bamy O ()

Jorge Reina Bk. (本陸軍士官) Adil Taimwell (高船学校教員)

Tran Johansson (高船学校教員) Marina de Chile

M.E. Tellechea Normalde

本日記一乗訪者一



0822

午前八時職員學生英國帆船、ヨウライカスル、号ヲ觀ル。今船、昨
夜濠州、三ノカラスルヨリ入港シタルモノナリ

午後三時半港務長及、コキボエセシイ、ヨルパニ支配人、招待、依
、職員學生總負海軍運動場、於テ、デニス、ヲ觀ル。茶菓、接
待、受テ七時半解散

本日市民來觀者頗ル多ク、夕刻迄來客断ハズ

三月二十六日 日曜日 晴天

今朝當地商船學校練習船「ブタオ」号ヨリ職員三名學生四名
率ヒテ來觀アリ。本船學生ハ擊刺、舞ヲ演シ茶菓、饗食ス。正午帰ル
。茶夜、コキボエ、エドモト、ヨリ支配人、スガク、氏本船ヲ長及職員三名
ヲ其自宅ニ招待シ、鄭重ニ晚餐、饗應アリ。主人側ニ、四名外、港
務長以下當地知名ノ紳士十四名會座シ、宴席深夜ニ及ブ

三月二十七日 月曜日 晴天

本日早朝、*Joazeiro* 市長 *Joazeiro* 氏及警察隊長 *Ed-
 uico de Lencastre* 氏、*La Lencastre* 市。訪問。職員二名随行
 二名、*Joazeiro* 市長 *Joazeiro* 氏、*Joazeiro* 市。訪問。職員二名随行
 後共無運賃、取扱ヲ受、午後一時也、*Joazeiro* 市。訪問。職員二名随行
 縣隊長並計官其他陸軍士官六名、出迎ヲ受、馬車三台
 二台乘、直、*Joazeiro* 市。訪問。職員二名随行
 士官、案内也、知事ヲ縣庁ニ訪問シ、市ノ中央公園ニ於テ陸軍
 士官集會所ニテ小憩中知事及陸軍士官總負會同ニ相共
 二酒杯ヲ舉、此間不絶樂隊ノ奏演アリ、此レヨリ縣隊長並計
 官、案内ニテ馬車ヲ驅リ、市内ヲ一巡シ、*Joazeiro* 市。訪問。職員二名随行
 杯ヲ舉、士官總負。停車場迄見送ラシ、始終鄭重ニ禮遇
 ヲ受、午後四時五十分也、*Joazeiro* 市。訪問。職員二名随行
 本日樂組員半給、*Joazeiro* 市。訪問。職員二名随行

本船ハ來三ノ日午後、P.O.ホムムニ催ス。決シ當地並ニセシテ市
在住ノ外國人ニテ入港以來直接ニ歡迎盡力シタル者ナシ
名ニ招待状ヲ發ス

十二月二十八日 火曜日 晴天

午前十時三十分知事 *Jacqueline Santos Cruz* 陸軍中將ニ

名同伴艦長ノ為ニ來訪アリ

英國帆船、ヨウセイノカズニ号船長本日來遊學生ノ為ニ碇石

積載方ニ有益ナル實驗談ヲ為セリ

午後二時職員學生總負當地商船學校長ノ招待ニテ全校

練習船、アタスノ号ニ於テ生徒物貨品授與式ニ臨席ス。式終

テ祝盃、招待アリ。午後六時解散ス

本夜港務長、商船學校長並ニ *Mr Black (Manager Coyuni-*

Ship Agency Co. Ltd.) 本船ニ招待ニテ晚餐、饗應ス。物

又夜十時迄懇話し了ぬ

三月十九日 水曜日 晴天

本日午后二時當地官民有志者、招待ニ依リ職員學生等
約五名(但し總負招待ヲ受ケルモ明三十日本船招待會準備部
會上應ルル能ハズ) *Onizuka* *Chit.* 氏ノ自宅ニ於テ催ニ係ル
園遊會ニ赴ク午后三時半開宴鄭重ナル酒食、饗應アリ
當地知名ノ紳士淑女子女ヲ伴ヒテ會同シ宴席、向テ周旋ス
且ツ飲ニ且ツ舞ニ主客相携、懇話親近ニテ實ニ愉快
ナル半日ヲ過ス下テ得テ夕刻散會ス
セリ市在任平河龜太郎氏、隣家ノ子女ヲ伴ヒ參觀アリ
國旗一枚煮酒打並、草花ノ界贈アリ

三月二十日 木曜日 晴天

本船當地帯在中樂組員ニ屬シ、見學並、遠航懸藉、為



0827

ノ特ニ資財ヲ費シ直接觀迎ヲ爲シ別紙記名ノ紳士淑女ヲ日本船ニ招待シテ、アフトホームニ催フレ告別ノ宴ヲ開ク
余興ニ陸軍音樂隊ヲセシテ要塞聯隊ヨリ借り受ケ上甲板ニ敷設ノ核敷ヲ設ケテ觀覽席トナシ學生、相模、桑道擊劍部仕合、尺八、薩摩琵琶等ノ催アリ午後二時ヨリ來賓ヲ接橋
迎ヘ左三時ヨリ余興ヲ演ス右甲板全部ヲ立食場トシ演藝
ノ間隨時諸種ノ饗應ヲ爲ス來賓約百五十名大ニ満悦
興ニ乘リテ歐州舞踏トナシ何レモ異口同音ニ本日ノ如キ愉快
ナル宴會ニ當地ニ於テ未ダ曾テ見聞セシコトナシト絶叫スル事
サアリ余ノ外國人ノ脚世辞トモ不覺本日ノ奉ニ確ニ彼等
ヲ満足セシメタルコト信ス午後六時三十分散會シ別紙ニ繪
葉書團扇玩具等ヲ寄贈ス老幼子女皆々囁々トシテ本
船通船ニ送リシ主客萬歳声裡ニ告別ヲ爲セリ(別紙來賓

人名畧也

七月三日 金曜日 晴天

今朝船長上陸して公文を各所へ訪問し告別を爲す
午後一時出帆布哇島、山口港へ向ふ

0829

コキシボ「港出帆」現状

職員 拾貳名

學生 八拾貳名

傭人 四拾六名

見習 壹名

計 百四拾壹名

吃水 前部 拾五呎六吋

吃水 後部 拾七呎十吋

平均 拾六呎八吋

吃水差 拾呎四吋

排水量 三千五百六拾壹噸

吃水 三呎四吋

飲料水 參拾屯

但壓船水函ニ總テ清水ヲ滿レアルヲ以テ何時タリトモ
之レヲ以テ補テテ得

壓船水函

- フオアーポリークタンク 四屯 (清水)
- 第一バラストタンク 九拾五屯 ()
- 第二バラストタンク 拾四屯 ()
- 前部デキークタンク 空
- エンジンタンク 四拾五屯 (罐水)
- ホイラータンク 五拾五屯 ()
- 第一アタニータンク 百四拾九屯 (清水)
- 第二アタニータンク 空
- アフターブロータタンク 拾七屯 (清水)

計 参百八拾参屯

石 炭

石炭庫内 六拾屯
二番船内 七拾屯

0832

自「コキ」港至布哇島「ロ」港

七月三十日

天候快晴南西ノ至輕風アリ午後一時拔錨「ロ」港

向「智利國警留練習船」ア「タウ」号及「碓泊中」ノ英帆船「サ」

及「コシウ」カ「ツス」号ヨリ愉快ニ航海ヲ新々信稱アリ之

答「全」一時三十五分「アウター」パ「ジャロス」島ヲ磁針方位南四十九度

西距離一哩半ニ航過ス

船陸岸ヲ離ルニ從ヒ風向漸次南方ニ變移セリ以テ全四時

三十分南緯二十九度四十七分西至七十一度三十八分ニ於テ流走

止テ總帆ヲ展ニ真針路ヲ北六十五度西ニ定メテ航進ス

明治四十三年一月一日 天候半晴偏南ノ至輕風アリ午前九時半

總負船尾樓上ニ北西ニ面シテ整列「君」代ノ喇叭吹奏

ニ遙釋ノ式ヲ行フ正午位置(南緯二十九度三十分 西至七十二度八分)

午後ニ至リ風力増加和風乃至疾風トナリ船一時間七哩ノ速

力ヲ以テ駛走スルニ至リテ然レテ風向ニ漸次左轉シテ遂ニ南
東トナリ

一月廿日 本船ノ南方約十里ノ距離ニ二隻ノ白ハリーノ形帆船ノ
北方ニ向ヒテ航走スルヲ認ム

一月廿日 晴天南東ノ輕風乃至和風アリ正午セントアブレロイセ
島ヲ真方位南十八度西四十三哩ノ距離ニ航過ス

一月廿日 晴天引續キ偏南東風ニ乃至四ノ風力ヲ以テ連吹
セテ午前九時ヨリ兩船直ニ總帆ヲ夏季用ノセテ着テ換ユ

一月廿日 晴天風向東南東ト南ニ東ノ間ニ變轉ス風力三差ニ四
午前六時五分火災操練ヲ行テ想定火災場ヲ二番船艙トシ

一月廿日 半晴朝來偏東ノ輕風アリ午前九時ヨリ當直船員
ヲ以テ操練及下手小廻リシテ操練ヲ行テ午後三時風全ク

死シ操練ノ効トシテ以テ止ム

一月十日 半晴過去數日來天候曇り勝ニテ風力四若クハ五節
ヲ風位東微南ト南東トノ間ニ於テ屢々變轉セルヲ以テ羅針
路ヲ北西二分ノ一真西(真針路北三十八度西)ト西微北(真針路
北六十七度西)ノ間ニ於テ最大速力ヲ得ル如ク操舵セリ

一月十一日 朝來南東微東ノ疾風アリ午後ニ至リ漸次減衰レ日没
ノ頃軟風トナル例ニ依リ午前中ニ船内各部ノ大掃除及火災
操舵ヲ行フ想定火災場ヲ賄所トス一號二號ストーション唧
筒、ウツレテキ唧筒、火災唧筒、何レモ有効ナリレ各員ノ働作
モ遺憾ナカリレカ唯「待テ」ノ號音ニ於テ各員命令ヲ恪守セ
ザリシヲ、舵手船長ヨリ訓戒ヲ與ハリ

一月十二日 味晴南東ノ恒風三乃至五ノ風力ヲ以テ吹續ス
霧氣頗多加テ學生食堂ニ於テ最高八十三度トナル

一月十三日 味晴東南東ノ和風アリ午前九時船首ヲ磁針路

西、向、前後船橋羅針儀及外三箇、操舵用羅針儀ノ自差
矯正ヲ行フ(磁氣赤道ニ於テ)

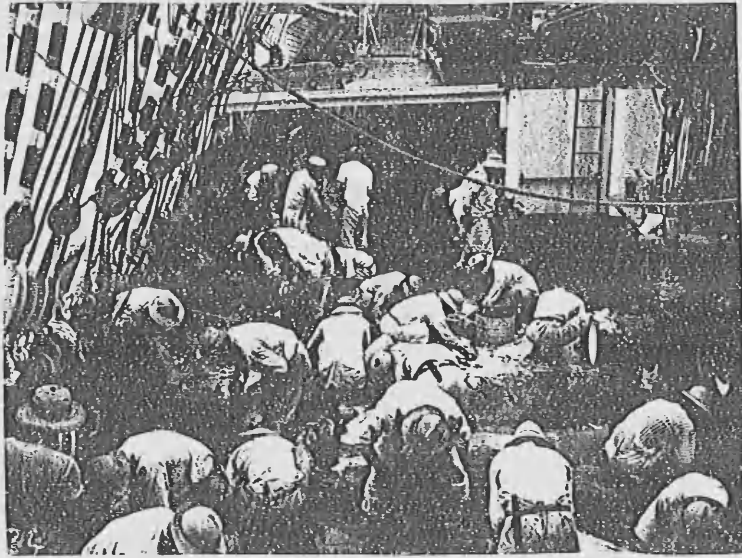
一月二十九日

晴天南東ノ和風ヲ午前中ニ例ニ依リ洗濯及船
内ノ大掃除ヲ午後三時ヨリ總員溺者救助操練ヲ行フ

船南東羅針方位ノ和風ヲ左舷船后三點ニ受テ四哩ノ速
力ヲ以テ西微北(羅針路)ニ航行中午後三時十分醬油空
樽ヲ左舷側ヨリ海中ニ投シ以テ墜落シタル人間ニ擬シ直
ニ船柄ヲ右舷一杯ニ取リ後桁ヲ上廻シテ踏蹴ス
今三時十分船首南微西二分ノ一真西(羅針路)ニ向テ
ニ時速力停止ス時、空樽ノ距離北七十三度東(羅針方
位)ニ二鐘半ナリ

今三時三十分操練ヲ了ス原針路ニ復ス

二月一日 晴天風向東及南東ノ向、變轉ス午前十時ヨリ前四



江戸の町

0837

ノ如ク赤道通過紀念トシテ學生各部ノ航的競技ヲ行フ旨
甲板部最高点ヲ得タリ午台十時三十分西至百十五度二分
於テ赤道ヲ航過シ北半球ニ入ル

コキボ港ヨリ南東恒風帶ヲ通過シテ赤道ニ至ル
全航海程航海日數平均速力ヲ算スルニ左ノ如シ

航程 三千百八拾哩

日數總計 三十三日十三時七分

一晝夜ノ平均 九十七哩六八

一時間ノ平均 四哩〇七

三月二日 天候半晴東乃至南東ノ葉風アリ午前九時ヨリ船

ヲ磁針路正北ニ向ケ前後船橋羅針儀及操舵用羅針儀ノ

自差ヲ矯正ス

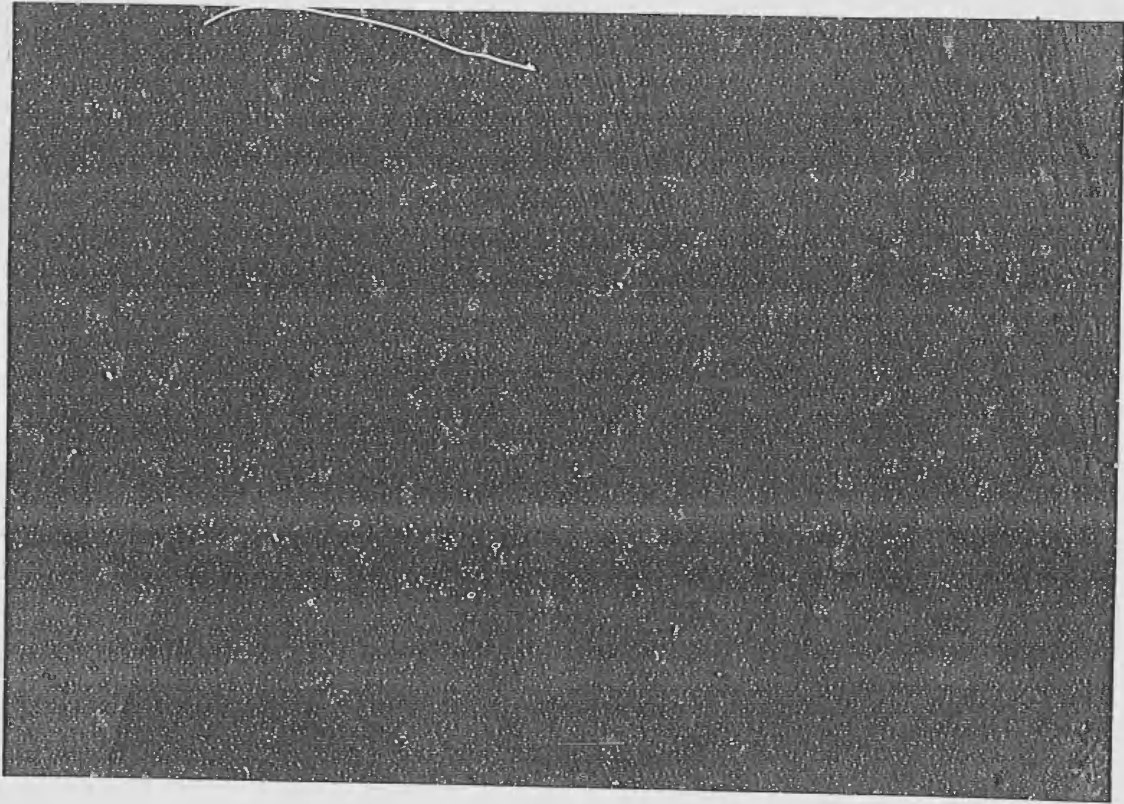
三月三日 天候半晴東南東ノ輕風吹續ス午后四時北至百二度

四十五方西至百十五度二十八方。於テ東西、延長シテ一線ヲ劃セ
ル。激潮ヲ航過ス

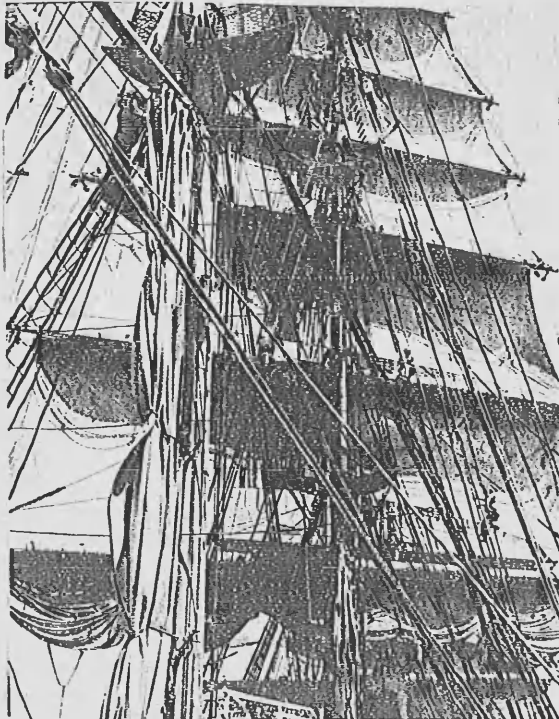
洋流ヲ概言スルハ南緯三度西至百十四度以北、於テ偏西ノ
潮流一晝夜七哩乃至三十哩ノ流程ヲ感ゼシニ北緯四度西
至百十方度。於テ反對赤道洋流一晝夜八哩乃至十哩ノ流程
ヲ驗スルニ至レリ

二月四日 北ヨリ北東ヲ至テ南東ノ方位ヨリ颯々ノ襲來ス概子
驟雨ヲ伴フ颯吹過ノ後、至輕風若ク、輕風トナル

コキ^ノホ^ノ出港ノ後數日南緯二十六度西至約八十度。於テ南
東恒風帶ニ入リテヨリ常ニ東乃至南東微南ノ順風ヲ得シ
ト魚凡其力大概微弱ニシテ駛力意ノ如クナラズ一晝夜間ハ
航程最大百三十哩ニ過ヤリシガ北緯四度西至百十方度。於
テ遂ニ恒風域ヲ脱シ赤道無風帶ニ入レリ



千種
の
考
・
神
習



11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

0840

二月七日 晴天前夜来颶、颶来頻繁ニテ常、驟雨ヲ伴フ午前

四時颶、颶来ト俱ニ風位北東トナリ遂ニ北東恒風域ニ入り雨後

引續キ四若クハ五ノ風力ヲ以テ連吹セリ正午位置北緯五度五十分西至百十度四十分

二月七日 天候前日ニ同シ午後六時三、ローヤル、ジツガー、トツポカスト、ステイ

スル、フライレグ、ジブ、ガフトツポスルヲ收ム全九時ヨリ猛烈ナル颶

引續キ北ニ東ヨリ颶来シ天候著ク険悪、微ヲ呈シ暗黒ノ

内電閃者所ニ見ラレ風向急変、懼レアリタルヲ以テ、メイン、スル

シロ、ジツガー、メイン、トツポカスト、ステイスル、ミッドル、ステイスル、三、アウパー

トゲル、スル、スバ、カー、ジツガー、ステイスル、及、アウター、ジブ、ヲ雷收

ニテ萬一ニ備エシモ風向変ズルナリ夜半ヨリ雨天トナレリ風力六

二月八日 朝来北東ノ雄風連吹シ濛雨アリシモ午前八時頃ヨリ風

力漸次減衰シ雨止ニ天候稍々恢復セシヲ以テ總帆ヲ展カシ

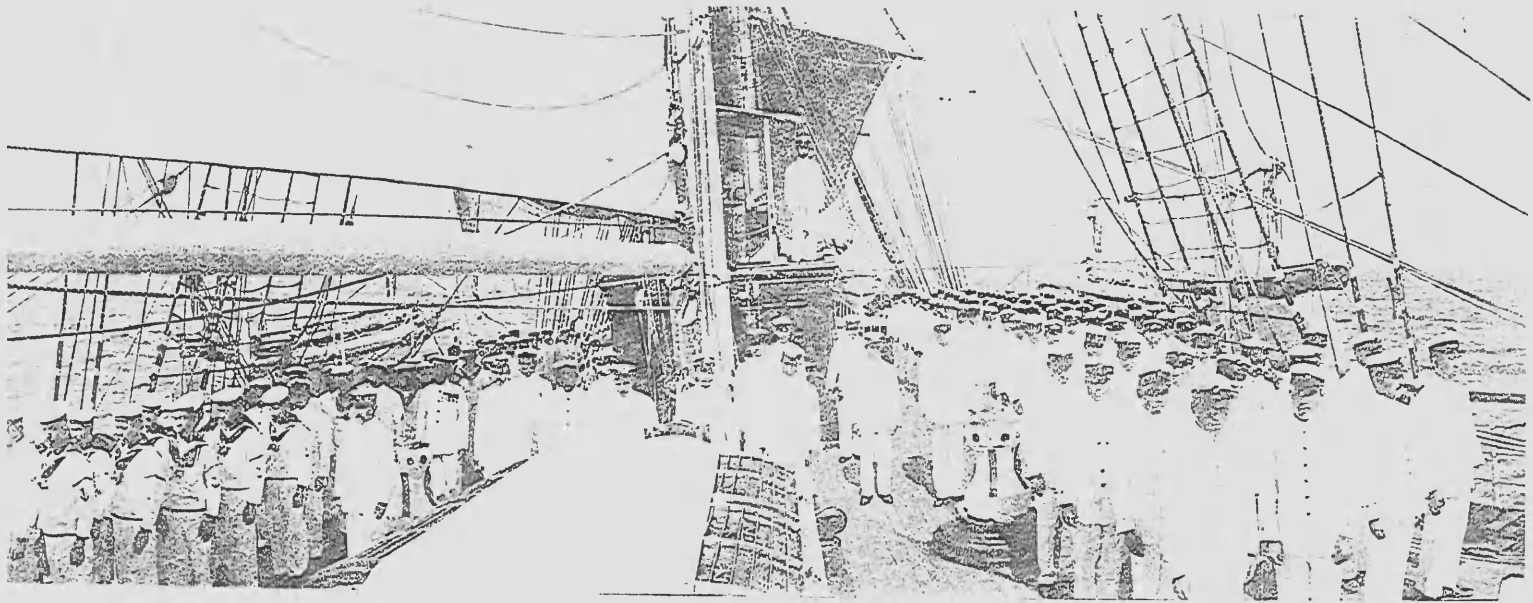
シ且朝照甚ク紅色ヲ呈シ何トナリ不穩ノ色アリタルヲ以テ再ビ

天候ノ變化シ来リテヤ氣遣ヒニ果レテ午後ニ至リ晴雨針
下降シ雲脚頗ル急テ夜ニ入リ驟雨屢ニ至リ所々電閃見
ル午右方時風力再ニ加ワリレテ以テ「アツパー」トゲルレ
スル以上ノ諸輕帆ヲ疊收ス

二月九日 天候ヲ續キ益ニ險悪ナリ午前四時三十分、ノイ
レニスル

「クロジヤツク」、「スペンカー」、「ビウカー」、「ス
ライスル」、「メイ」トツ「ポストスライスル」
「アウター」レ「ブ」ヲ疊收ス全六時五十分猛烈ナル颪
ヲ引續キ来襲ニ豪雨ヲ降ラレ電閃ノ内鏡聲ノ如キ音響音ヲ耳
ス風力最ニ強烈ナリレ時々(風力最強九)約三点船首ヲ起
シテ風ヲ船后四点ニ受クル如ク操舵セリ

風位、最初北東ヲ東微北ノ間ニ業レ然尚風勢甚ニ強烈
ナリ漸ク減衰シテ輕風トナルヤ急遽西北西ニ業レ海ニ稍
強性ノ颪龍來セリ夫レヨリ尚北西北々東ニ業レ轉シ遂ニ平



言三時半北東。復航して天候も亦漸次快儀せり。以て羅針路
ヲ西北西に定めて航進せり。時々風力五

晴雨計。最低二十九時七三。風力、尤も強烈ナリ。一時間

ニ其示度、五時ノ變化ヲ見たり。而して其地方に於てハ通常

氣壓ハ二十九時八七トス

二月十日 晴天偏北東、和風乃至疾風あり。神武天皇即位紀元

二千五百七十年、佳節に當りて以て例に如く午前九時半總

負船尾樓上、於て船首に向つて整列遙拜、式ヲ舉行ス

正午位置 北緯三十一度三十分
西至百二十五度三十分

二月十日 曇天偏東、疾風あり。午前九時より船首に磁針路西

向て前船橋羅針儀、垂直軌鉄に起因する半周差ヲ矯正ス

正午位置 北緯三十一度三十分
西至百三十七度二十四分

北東恒風帯に入りて、大概北東乃至東北東、和風乃至強風

連吹ニ北緯十六度半西至百三十七度半ニ達スルニ及ビ東
風トナリ風力モ大概四トナリ北緯十八度半西至百四十三度
半ニ於テハ遂ニ過減シテ三差ニニトナリ風位晝間ニ東北東
ニシテ夜間ニ東方ニ變轉スルヲ常トセリ

晴雨計ニ北東恒風帶ニ入りテヨリ其昇降差急激ニシテ時
ニ一時間一三五吋ニ達セルヲアリ。○六差クハ○七吋ノ變化ヲ示
スル屢ニ見ラレ然レ天候ニ何等著シキ異變ナカリシ

二月十九日

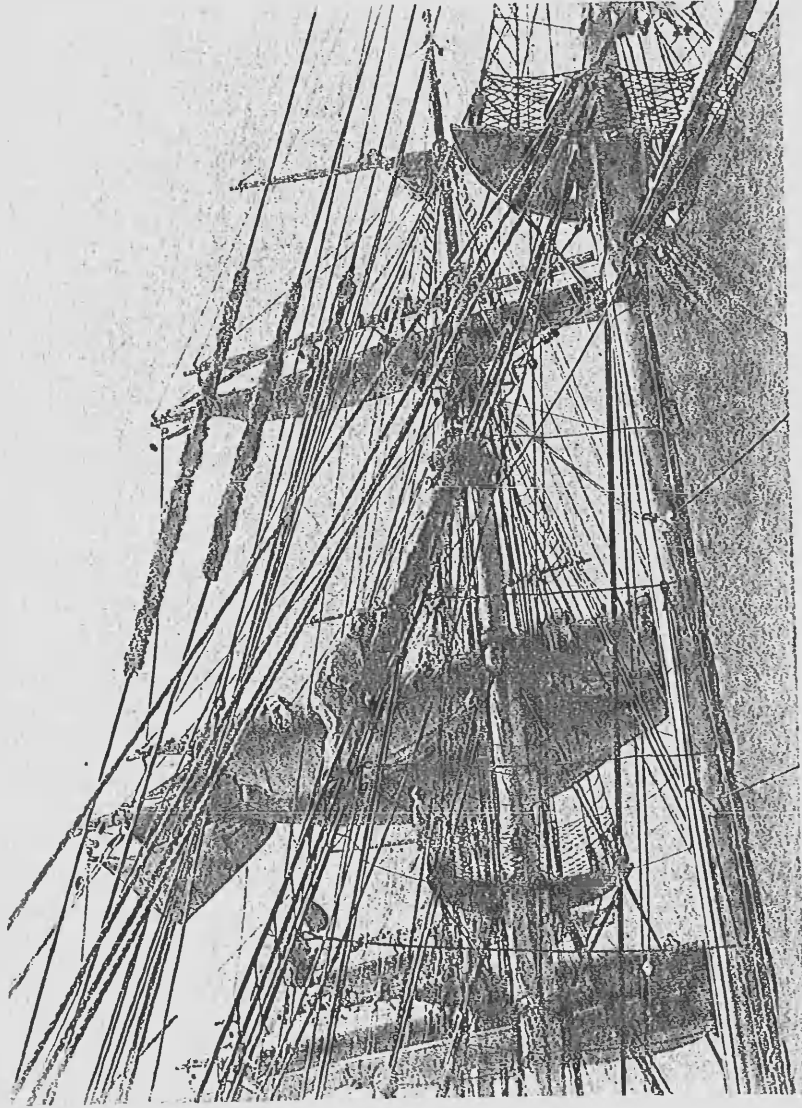
晴雨^天 偏東ノ軟風アリ常規ノ如ク午前中ニ船内ノ大

掃除ヲ行ヒ午後三時ヨリ順走中ノ弱者故助操練ヲ行フ

船東方(羅針方位)ノ軟風アリ右舷船后一具ニ受ケ三哩ノ速
力ヲ以テ西微北(羅針路)ニ航行中午後三時四十分空鐘ヲ右
舷側ヨリ海中ニ投ジ以テ墜落シタル人間ニ擬シ直ク船柄
ヲ左舷一杯ニ取リ後折リ逆廻シテ踞躅ス



01539



11/11

分三時九分半、船首北西微北二分、一身北（羅針路）ニ向キタル時速
カ御出云時、空鐘、距離南七十二度東（羅針方^位）ニ二鐘十

リ、分三時十九分操練ヲ了工原針路西微北ニ復ス

晴^ク 天候快晴、數日來風力ノ増減ニ及ビ三ノ間、於テ不

定ナリシガ布哇島ヲ西ニ距ツル二百四十里ノ地^{北緯十九度三十分}身
^{西至百五十五度五十分}

ニ於テ東風再ビ強吹シ始メ四差ク、五トナル

晴^ク 半晴南東ノ和風アリ、船布哇島ヲ距ツル七十里以

内ニ近キタルモ金島濃雲ニ包ミ加フルニ驟雨ノ來ルノ頻繁

ニテ其山影ヲ認ムル能ワズ漸クニシテ午前六時十分直方位

南七十度西約四十五里ノ距離ニ雪ヲ以テ点綴セルマツ

トケア（一万三千八百。五呎）ノ山頂ヲ視定セシモ須臾ニシテ

再び雪ノ積ルニ越ル、今九時十分總帆ヲ畳收レテ汽走ヲ

始メ全土時陸岸ヲ見得ルニ至リシモ山巔及岬角ハ尚ホ

雲霧、蔽リテ確認スヲ得ス午後一時、ヒロ港口、アロシテ
 礁北西端、アレン霧笛浮標ヲ南二方、一点西（磁針方位）約
 三哩、認め全一時半、浮標ヲ正東（磁針方位）三鐘、距
 離ニ通過ス全一時三十五分、水先人兼港務長「マツシヤ」
 氏兼船港内ニ向ヒ航進シ全一時四十七分、水深七尋半、
 錨鎖四十五尋ヲ出シテ、錨泊ス底質泥
 潮流、布哇島岸ヲ離ル、約五十哩ノ間ニ於テ一時間大凡
 二哩ノ速力ヲ以テ北方ニ流ル、モ、如シ
 コキボレ港出帆以來當港ニ至ル全航海日數航程及び
 平均速力ヲ擧ゲルハ

日數總計 五十七日 廿時九分
 全航程 五千九百八十五哩

同

帆船
日数 五十六日廿二時四十九分
距離 五千九百四十三哩

汽走
日数 七時二十分
距離 四十二哩

帆船
一晝夜ノ平均 百〇四哩四
一時間ノ平均 四哩三五

汽走
一晝夜ノ平均 百三十七哩五
一時間ノ平均 五哩七三

尚右右日ノ参考ニ資料ナル為ニ赤道ヨリ布哇島トシテ港ニ至ル
迄ノ全航程航海日数ノ平均速力ヲ與平ガレハ左ノ如シ

航程 五千八百〇五哩

日数總計 五十四日十六時五十分

一晝夜ノ平均 百十三哩五二

一
時
間
平
均

四
厘
七
三

0851